主な内容

辛くて楽しかった獨協中高の 11 年 ……永井伸一…（1）
校長就任にあたって ……渡辺和雄…（2）
総会・懇親会のご案内 ……（4）
朝倉保平先生を偲ぶ ……酒井　府…（4）
中学野球部の活動 ……馬越右左司…（5）
吹奏楽部の活動について ……古池俊明…（6）
1933 年の卒業アルバムが寄贈されました ……（7）
日独交流 150 周年 ……神谷善弘…（7）
コラム・ドイツ ……柳原克忠…（9）
卒後ン十年 ……（10）
クラス会だより ……（11）
物故者名簿 ……（14）
平成 23 年度大学別合格者数 ……（15）
退任にあたって ……音海紀一郎…（15）
生徒の皆さんさようなら ……小室邦雄…（15）
獨協同窓会　今年も獨協祭に参加 ……（16）
目白だより ……（16）
事務局より ……（16）
編集後記 ……（16）

http://www.dokkyo-mejiro.com　獨協同窓会 検索

獨協通信

題字・天野貞祐

第 76 号
平成 23 年 5 月 20 日発行
発行所　〒 112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL ／ FAX 03（3946）6352（直通）
獨 協 同 窓 会　発行責任者　鈴木　荘太郎

辛くて楽しかった獨協中高の11年

第21代校長　永 井 伸 一

ミレニアムの 2,000 年獨協へ 21 代校長として赴任した時、明治の元勲たちが 120 年前に設立したという歴史を感じた学校であった。

最初の入学式の祝辞では筑波大学でエーリッヒ・フロムの「生きるということ」が参考にされ人間の根本的な価値観について国際会議が開かれたことを引用して、今日からは意識して「生命とは、いかに生きるか、どう生きるか、さらによりよく生きる」ことを考えて欲しいことを話した。

そして、獨協の伝統を維持するためには、常に新しいことを取り入れることが大切で、「天野理念」を 21 世紀にふさわしいものにするため「あたりまえのことを当たり前に行う」という行動指針と「人類と他の生物との共存」を教育理念として取り入れた。

ビオトープ　２年目、武蔵野の草、水草が繁茂。野球部の生徒が見える。

赴任当初はリベラルという言葉が、わがままという言葉に置き換えられ、獨協の理念を確立するためには大変な努力のいる３年間であった。幸い同窓会、ドクターズ・クラブ、後援会という獨協ならではの組織に助けられながら６年目にようやく獨協らしい教育をスタートすることがでた。学問を通しての人間形成を行うための哲学とスキルがようやく始まった。すなわち改めてどのような学校にするかを若手中心に意見を出し合い、方向性を決め、それに沿って、まず英語の授業改革、スキルのための教材の作成、次に数学、そし

て一昨年から理科の改革が進んでいる。

獨協は人間として知性を高め、利他の精神を養うと同時に、自分の進みたい大学へ入学するため勉強に集中しなければならない。感情の脳を豊かにするとともに、前頭葉を使って知識を知恵にしなければならない

屋上緑化、　ゴーヤのカーテンとスイカ

ことを１１年間朝礼で話し続けた。
そしてこの理念を実行するため、科学の知識・技術の活用で実証するため３つの事を行った。すなわち校庭の一郭から瓦礫を取り除き２年間で武蔵野の自然を回復する計画を立て、太陽電池を利用して流れのあるビオトープを生徒と教員、PTA の OB、NGO の専門家の援助で造り上げた。その結果水草やカワニナ、クロメダカなどが増え、２年目でホタルが羽化し、３年で自生のホタルが舞うのが見られた。

さらに第２弾として、世界で獨協だけの栽培技術、産業廃棄物である鶏糞を燃焼した灰を使い、最小限の土、肥料、水で４階のテラスと５階の屋上にゴーヤの緑のカーテンを作り室内の温度が５℃から 10℃下がり、ゴーヤを 1,000 本採集し、スイカを 52 個、トマトは 2,000 個採集することができた。これも科学技術を駆使することによって達成することができたのである。

最後に今年の２月 19 日にコンクリートの塀を 50 m 壊し、銅像を正面に移動し、その跡地約 10 mにブループラネット賞受賞の宮脇昭・横浜国立大学名誉教授方式のシイ、カシ。タブをはじめとした潜在的植生の 300 本の苗を植える「獨協の森植樹祭」を行った。これは朝礼で「鎮守の森」を作ろうという話をしたところ、中学生を中心にコンクリートを壊し緑にしようという声がわきあがり植樹祭につながった。

今年の大学入試は東大理科Ｉ類２名、東工大２名、さらに東京芸大２名、マーチ 123 名という獨協の人間教育と学力向上に相応しい結果を出してくれた。
厳しい前半と先が見えてきた後半、長くて短い 11 年であった。これからの世界の若者は教わるよりまさに切磋琢磨して自ら学ぶことにシフトされている。

鎮守の森（代表植樹、成澤区長、豊島区植樹責任者、生徒、知的障害者代表）

卒業式では祝辞の最後に 10 年後の皆さんにお会いしたい、小生も卒業にあたり、命ある限り地球環境の仕事に携わって行きたいと思っていることを述べた。

同窓生の皆さま方も今まで以上に母校を励ましてくださることをお願いし、長い間皆さま方に励ましていただき、それに応えてくれた教職員の方々に感謝し、獨協の更なる発展を見守りたいと思います。本当にありがとうございました。

校長就任にあたって

獨協中学・高等学校 校長　渡 辺 和 雄

平成 23 年４月より、任期満了で退任された永井伸一先生の後をついで、第 22 代獨協中学・高等学校の校長職を拝命いたしました。平成 18 年から５年間、高等学校教頭を務め、多少なりとも学校の運営に携わってきたとは言え、浅学菲才の私が、128 年の歴史と伝統を持つ獨協中学・高等学校の校長をお引き受けすることの責任の重さ改めて痛感しております。

さて、永井先生が 11 年の在任期間におやりになったことを中心に、現在の獨協中学・高等学校の様子を記しておこうと思います。長年、本校は「教科教育」と「人間教育」の２本を柱とする理念の下、教育を実践してきました。その理念は言うまでもなく、第 13 代校長天野貞祐先生の教育観そのものです。「学問を通じての人間形成」とは高等教育の場を指しての言葉ですが、卒業生の皆様ご承知のように、長く、獨協の教育理念として用いさせてもらっています。それに、加えまして、近年では「自己実現」と「社会貢献」の２つの言葉を用いて、教育理念

としております。言うまでもなく、「自己実現」とは自分の適性にあった、自分のやりたいことを見つけていく、そしてそれを現実のものとするために研鑽を積んでいくということですが、そのやりたいことが自身の利己的な欲求に留まらないことを現在の獨協は大切にしております。

時代はグローバル化をいっそう推し進め、もはや、後戻りすることは無いと思われます。そのため、現代の問題はグローバル化から生まれると同時に、グローバルな視点からしか解決出来ない状況にあります。政治の問題、経済の問題等、問題は山積していますが、その中で最も喫緊、かつ深刻な問題の一つが環境問題ではないでしょうか。いくつもあるうちの最も大きな永井先生の功績は、獨協に環境教育を導入し、根付かせられたことにあるのではないでしょうか。その方法も生物学者らしく、科学（先生はサイエンスという言葉をお使いでした）に基づいた教育でした。生徒と共にビオトープを作り、最新の科学を用いた屋上緑化を推進する、また、日本古来の樹木によって獨協の森の植樹を行う等、常に実践的な視点から環境教育を推し進められました。

こうした、実践的な環境教育の有りようが、教育のもう一つの柱である「社会貢献」の理念を象徴していると考えています。今だけでなく、将来にわたって、誰かの、ひいては人類全体のため、あるいは他の生物との共生のために貢献できる人間になること、そのことと自己実現が一致するよう６年間のカリキュラムを作っているのが現在の獨協です。新校長たる私の使命は、伝統的な教育理念はもとより、現在進みつつある教育内容を受け継ぎ、さらに発展させるところにあります。

さて、今後ですが、生徒も教職員も明るく前を見据えて進んでいます。獨協はこれから、以前にも増して、社会で評価される学校になっていくものと確信しています。私も明るく前を見ていこうと思っていますが、主人公はあくまでも生徒自身ですから、新しく獨協の一員になった新入生に向かって、自分の希望をかなえるだけでなく、他の人々の、あるいは次の時代の人々の幸せをかなえるよう、大きな志を持ってもらいたいという思いから中学入学式の式辞として次の三つについて話しました。

まず一つ目は自分がしなければならないことするということ。

現在、今まで体験しなかった変化が世界的な規模で起きようとしている。そうした時に、自分のやりたいことを見つけようという姿勢に留まっていては問題の解決には至らない。皆さんの中には具体的な将来の夢を持っている人がいるかもしれない。それは大変立派なことだが、その夢は自分のための夢であってはならない。われわれの社会は自分以外の人達と共存できてこその社会であるから、自分以外の人達に、意味あること、価値あることと認められて初めて夢の実現が果たせたと言えるのである。やりたいことが自分の欲望の充足になっては夢とはいえない。これから先、夢を持つ場合でも同様である。

二つ目は、人は何者かに成る存在だ、ということ。人は行動することによって何者かになっていくものである。例えば、人はきちんとした生活を送ることによって、きちんとした人間になっていき、生き生きとした行動をすることによって生き生きとした人間になっていくのである。もう一つ重要なのは自分が生き生きとしていれば回りにいる人達も生き生きとしてくるということである。また、逆に、生き生きとした人によって自分も生き生きとしてくるということでもある。人は何者かに成る存在であるが、自分ひとりで何かに成っていくわけではない。是非、皆さんには立派な獨協生に成っていってもらいたい。立派な獨協生にしてもらって欲しい。そして、回りにいる人達を立派な獨協生にしてもらいたい。

三つ目は学ぶということ。

これから獨協で多くのことを学ばなければならないし、学ぶ意欲にあふれているはずである。ところで、なぜ学ぶのか。夢を実現するためなのか。将来自分の役に立つからなのか。それとも大人になって損をしないためなのか。問題なのは、学んだ内容が将来につながると誰が判断するかである。今の段階では学ぶ理由のすべてを理解しているわけではないはずである。６年後に獨協高校を卒業する時点でも程度は変わっていてもすべてがわかっているとは言えないと思われる。「なぜ学ぶか」の答えは「まだ学んでいないから」である。知らないこと、知らない考え方だからこそ学ばなければならないし、いつまで経っても人はすべてを知ることはできない。だからこそ学び続けなければならない。また、学びは本の中や机の上だけにあるのではなく。友人からも先輩からも時には後輩からも学ぶし、さまざまな体験の中からも学べる。そうして学んでいると「学ぶ力」が付いてくる。獨協は学ぶ力をつけるところである。したがって、学ぶ力を持った人間になっていってもらいたい。世界的な規模での新たな変化に対応するためには、この「学ぶ力」が必要である。

以上の３点を新校長の考えとして新入生に向けて話しましたが、もちろん、中学２年生以上の獨協生全員に求めていくつもりでいます。簡単なことではないと承知していますが、獨協の教育方針は永井先生が常々言われていた「あたりまえのことがアタリマエニできる」です。三つのことが「あたりまえ」なことになれば獨協生は社会に貢献できる人材に育っていくものと確信しています。

さて、現在同窓会にはさまざま、本校の教育のために力添えを頂いております。教職員、在校生のみならず、保護者、そして受験生、その保護者に至るまで大きな貢献を頂き感謝しております。また、同窓生の皆様には、獨協生が社会に出た折に、厳しくも、暖かく指導してもらっているとの声が届いてきております。今後とも、教職員挙げて生徒の教育に当たってまいりますが、是非とも後輩達のために一層のご理解、ご協力を頂けますよう、学校を代表してお願いいたします。

6月18日（土）総会・懇親会開催

今年度の総会は、下記のご案内のように平成23年6月18日（土）に開催されます。総会付議事項につきましては、別紙「通常総会議案書」にてご確認ください。また、総会後は、例年通り「椿山荘」にて懇親会が開催されます。恩師、旧友も多数参加されますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

総会・懇親会のご案内

開 催 日 時：平成21年6月18日（土）

場所・時間：総　会　会　　場：獨協中学・高校小講堂
受付開始：午後4時30分
開始時刻：午後5時
懇親会　会　　場：椿山荘・ギャラクシー
受付開始：午後6時より
開始時刻：午後6時30分

懇 親 会 費：（会場受付でお支払い下さい。）
昭和24年以前の卒業生 …… 無料
昭和25年～平成17年の卒業生 ……5000円
平成18年～平成22年の卒業生 ……2000円
平成23年の卒業生 …… 無料

◇総会・懇親会の出欠につきましては、同封の別紙及び返信用封筒をご利用いただき、6月8日までに必着するようにご返送ください。

第18代校長 朝倉保平先生を偲ぶ

酒　井　　府（昭和28年卒）

朝倉先生が獨協大学に教授として迎えられたのは、1966年（昭和41年）４月であり、獨協大学創立三年目、私がその前年に助手として就職した二年目の事であった。1937年（昭和12年）３月に東京帝国大学文学部獨乙文学科を卒業され、1941年（昭和16年）３月より東京帝国大学文学部新聞研究室研究員嘱託を経て、1944年（昭和19年）５月より長野工業専門学校講師嘱託も勤められ、第二次世界大戦中の兵役は免れたようであった。終戦後は富山、信州、金沢大学で教鞭を取られ、天野貞祐先生に獨協大学に招かれたのであった。従って、当時朝倉先生は、私の二十歳以上年上の大先輩であり、草創期の獨協大学外国語学部、とりわけドイツ語学科にとって貴重な存在であり、その発展に多くの貢献をされたのである。また当時、ドイツ語学科には東京大学や他の国立、公立大学より迎えられていた更なる年長の教授方がおり、朝倉先生はその先生方と私達年下や若手の教員との橋渡し役としても苦労されたのである。

その朝倉先生が更に苦労されたのはあの日本全国に於ける大学紛争の時代の1967年（昭和42年）４月より二年間、学生部次長を勤められ、学生達に対処されなければならなかった事である。その後、先生は更に二年間、1971年（昭和46年）３月迄、今度は学生部長を勤められた後に、ドイツ語学科長（1971年11月～1973年10月）、外国語学部長（1976年４月～1978年３月）、更に学友会総務部長を1980年（昭和55年）４月より1984年（昭和59年）３月迄勤務されたのである。

それだけ多くの役職を全うされ、獨協大学の発展に貢献された先生は、総務部長を退かれた後に大学を定年退職され、その後二年に亘って、特任教授として学生を指導されたのである。先生が研究者として、研究されてきたのは、独逸ローマン派、仄聞するところ、とりわけノワーリス（Nonalis 1772-1801）と云われていますが、その研究の中心は獨協大学へ勤務される前の様であり、残念ながら私はその著作を読んでおりません。しかし先生の挙止容貌には何かローマン主義的側面があったと思うのは私一人の思いであろうか？

先生が獨協目白の校長を勤められた四年間に就いては残念ながら私には語る素材も資格もないので、先生の冥福をお祈りしつつ筆を擱きます。

中学野球部の活動

中学野球部顧問　馬 越 右左司

現在の中学野球部部員は１学年 14 ～ 15 名で 45 名前後が毎年在籍しています。昔はほとんどの生徒が経験者でしたが、最近各学年にはまったくの初心者が数名含まれており、キャッチボールから教えていかなくてはなりません。

活動場所は狭い体育館上グランドを更に半分に分け合って使っています。塁ベースを置くとほぼ一杯になり、サッカーボールが飛び込んで来ることもしばしばあります。当然内野ノックしかできません。外野ノックは日曜日に全面を使用できる時だけになります。獨協は施設が貧弱な割りにクラブ数が多く、グランドは週に３日（水・木・土）しか使えません。日曜日は顧問の出校が必要となりシーズン中はお休みがありません。

しかし幸いなことに野球部の父母会は大変熱心で毎年援助をしてくれます。これまでに打撃ケージが２レーン（高校野球部と共用）とピッチングマシン２台、ノックマシン１台、その他多数のネットを揃えることができました。ダイヤモンドの外の空いたスペースに設置してストレートとカーブの打撃練習をすることができます。

全体練習・紅白戦などは３年前までは近くの目白グランドを借りてできましたが、現在は経営が変わり午後４時までの使用ということで借りることができません。月に２～３回東池袋にある人工芝の豊島グランドを借りて行っています。

年１回の合宿が認められていますので、夏休みには新潟県の苗場で新チームを鍛えています。合宿ではみんなよく頑張って取り組んでくれますが、普段の練習時のランニングは自覚が足りないのか、歩いてしまう生徒が多くみられます。そのせいかどうか最近の生徒は体力がありません。また精神力も弱い生徒が多いようです。

大会の参加は秋の新人戦、春季大会、夏季大会の三つの公式大会に参加しております。

20 年以上優勝から見放されています。隣の日大豊山中が有望な選手を集めたりして相当に力を入れており、ほとんど毎回のように優勝をさらっていきます。

他には、準公式大会となる東京都私学大会に中３の秋に参加しています。上記の三大会はトーナメントで一発勝負ですが、この私学大会は８ブロックに別れ予選はリーグ戦を行います。その後決勝トーナメントとなります。昨年度は幸運にも優勝できました。

昨年度の戦跡

私学大会予選ブロックリーグ　（三年生）

１０月１１日　和光中グランド　晴れ

獨 協	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
和 光	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4

投手：○北川　奪三振：１３　与四死球：２　被安打：９
安打：９　二塁打：石井　失策：６
最終回、同点に追いつかれるも延長１５回、石井の二塁打から決勝点をあげる。
和光中は OB の天野　暁君が顧問をしています。

１１月３日　和光中グランド　晴れ

獨 協	2	0	0	2	1	0	0	5
世田谷	1	0	1	0	0	0	0	2

投手：○小守　奪三振：７　与四死球：３　被安打：４
安打：６　失策：４

１１月６日　和光中グランド　晴れ

淑 徳	1	0	0	1
獨 協	2	2	８×	１２

投手：○北川　奪三振：２　与四死球：３　被安打：１
安打：６　三塁打：冨田　二塁打：椎葉　失策：１
予選ブロック３勝０敗で決勝トーナメント進出

私学大会決勝トーナメント準々決勝

１１月１１日　豊島グランドＡ　晴れ

獨 協	0	2	0	0	0	2	0	4
学習院	0	0	0	0	1	0	0	1

投手：○北川　奪三振：６　与四死球：４　被安打：４
安打：５　失策：１

私学大会決勝トーナメント準決勝

１１月２１日　麻布中多摩川グランド　晴れ

青山学院	1	2	0	0	0	0	0	3
獨 協	0	0	0	0	3	2	×	5

投手：○北川　奪三振：６　与四死球：４　被安打：７
安打：５　二塁打：柳川、北川　失策：４

私学大会決勝トーナメント決勝

１１月２８日　麻布中多摩川グランド　晴れ

麻 布	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
獨 協	0	0	0	0	0	0	2	0	0	１×	3

投手：○北川　奪三振：８　与四死球：４　被安打：５
安打：９　二塁打：石原、小守、深井　失策：３
最終回小守・深井の二塁打を足場に追いつき９回より無死満塁からのサドンデスで椎葉のセンター前ヒットでサヨナラ勝ち。**私学大会初優勝！！**

吹奏楽部の活動について

吹奏楽部顧問　古 池 俊 明

吹奏楽部の現況及び各種大会の受賞についてご報告させて頂きます。

2011年度４月現在、部員数（新中Ｉを除いて）は35名（高校生10名・中学生25名）、活動日は金曜を除く週５～６日になっています。中高は分かれる事なく、各種大会は全て高校の部で出場しています（中学生も参加できます）。年間スケジュールは、４月の入学式・新入生歓迎会での演奏から始まり、東京都高等学校バンドフェスティバル（６月）、合宿を経ての吹奏楽コンクール（８月）、文化祭（10月）、クリスマスコンサート（12月）、東京都アンサンブルコンテスト（１月）、卒業式・定期演奏会（３月）になっています。賞の出る大会は吹奏楽コンクールとアンサンブルコンテストになりますが、2010年度結果は吹奏楽コンクール・銅賞受賞、アンサンブルコンテスト・銀賞受賞となりました。

吹奏楽部の特徴としましては、「音楽を通して仲間・礼儀の大切さを知り、全員がレギュラーの自覚を持って臨むこと」が挙げられます。その為吹奏楽コンクールでは、全員が同じ目標を持って進む為に（全員が出場できるために）、最上位であるＡ部門（55人編成・全国大会コース）に出場しています。アンサンブルコンテストに関しましても、一人でも高校生がいる場合は高校の部に出場しています。「結果」を目指すことは大切ですが、それだけに固執する部員は一人もいません。まずは共に成長できる最善の方法を話し合い、ゴールである「結果」を目指しています。この先、人数の関係等により全員が出場できなくなったとしても、この伝統はしっかりと受け継がれ、仲間を一番に考えた活動を送っていけると信じています。

さて、この度東日本大震災による災害で、多くの方々が家族や家を失い、日本中が悲しみに包まれております。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。我々獨協吹奏楽部の中にも、液状化現象等の災害により避難されたご家庭もあります。また、安全面や電力不足の影響から、３月28日に予定されていた「第24回・獨協中学高等学校吹奏楽部・定期演奏会」も中止というかたちになりました。被災された方々を思えば瑣末な小事になりますが、

本番に向け努力を重ねてきた部員達、特にこの定期演奏会で部活動を終え受験に挑む新高３生にとっては、非常に残念な結果となりました。今後どの様に彼らの気持ちを整理してあげたらいいのか煩悶致しましたが、顧問の心配も何処吹く風か、直ぐに「今自分たちにできること」を模索し始めた彼らに大変驚かされました。また、定期演奏会用のプログラムが未完成のままだったのですが、「後輩達の為にもお手本になる様なプログラムを完成させたい」と最後まで遣り遂げてくれました。この様な状況でも後輩（仲間）を想い、懸命に励ましてくれた彼らに、心から深謝の念を捧げたい気持ちで一杯です。

最後になりましたが、定期演奏会ではＰ．チャイコフスキーの「スラヴ行進曲」をメインに演奏する予定でした。チャイコフスキーはロマン主義的な特徴も持ち合わせていますが、同時にロシアやチェコを代表とする「国民主義」の分類に入る作曲家でもあります。国民主義とは「自覚的に自らのルーツを探求し、その特徴を芸術表現に盛り込む」音楽であります。本番で演奏することは叶いませんでしたが、この曲を通して、また今回の災害を通して、改めて自らの「吹奏楽愛」の根源を探求できたのではないかと思っています。

1933年の卒業アルバムが寄贈されました

昨年1月に同窓生の中田義雄様のご親族の阪本智子様から卒業アルバムが寄贈されました。

A4判横のこじんまりとしたものですが、表紙には獨協の校章と1933年の年号が箔押しされていたようです。中扉には「卒業記念　第四十二回　獨逸学協会学校中学」と記載されています。内容は校舎、校旗、名誉校長金杉英五郎先生及び校長司馬亨太郎先生のお写真、教員の集合写真、甲組の集合写真、乙組の集合写真、7人から8人ずつのグループの集合写真15枚からなっています。それぞれの写真は黒い台紙に張られその上に写真の説明、氏名等が記されたハトロン紙が被せてあります。

西暦1933年は昭和8年に当たり学校は創立50周年祝賀式典を神田一ツ橋教育会館講堂にて挙行しています。しかし、世の中は前年の5月15日に「5.15事件」が起こり、犬養毅首相が暗殺され、日本が軍国化へと歩み始めた時期でもあります。そんな中学校卒業に当たって作成された貴重な卒業記念アルバムです。

写真を見てみますと、勿論、モノクロ写真で、時の経過を示すようにセピア色に変色しています。制服、制帽は現在のものと同じように見受けられます。5年制中学校の卒業生ですから17,8歳と思われますが現在の同年齢の者に比べ一寸無骨な印象もあります。

同期の同窓生の方はご存命であれば90歳をはるかに超えているのではないかと思われます。ご寄贈くださいました阪本様は中田義雄様の姪御さんに当たられるとのことで、お父様が義雄様の弟さんとのことです。なお、義雄様はお若い頃に日本脳炎で亡くなられたとのことでした。

貴重なアルバムをご寄贈頂き阪本様には紙面をお借りして御礼申し上げますとともに、記事としての掲載が1年遅れたことをお詫び申し上げます。

日独交流150周年
150 Jahre Freundschaft Deutschland – Japan

神　谷　善　弘　（昭和57年卒）

『「日独交流150周年」の開催を心よりお祝いします。

1861年の日・プロイセン修好通商条約の締結以降、我が国とドイツは、両国民間の親近の情に支えられ、150年にわたり良好な関係を築いてきました。その間、医学や法学を始めとする様々な分野において日本はドイツから多くを学びました。また、多くの著名なドイツの音楽家が、今日に至るまで我々の心を魅了しています。

一方、ドイツにおいても、日本の伝統文化への関心に加え、最近では漫画、アニメといったポップカルチャーや日本食への関心が高まっていると伺っております。

今日、両国はそれぞれの文化を尊重するとともに、共通の価値観を有し、政治、経済、スポーツなどあらゆる分野で交流が行われています。交流150周年というこの歴史的な年を記念し、日独両国で開催される事業を通じて相互理解を深め、両国民の間で更に強い「絆」が生まれることを願ってやみません。』

この御言葉は、2011年1月に外務省が編集・発行したパンフレット「日独交流150周年」に掲載されている「日独交流150周年」への皇太子殿下によるメッセージです。

1月24日の国交樹立150周年記念式典には、ベルント・ノイマン（Bernd Neumann）連邦首相府国務大臣（文化・メディア担当）を始めとして、政治・経済・科学・文化など各界を代表するおよそ200人の方々が招かれました。皇太子殿下は、「日独交流150周年」の日本側名誉総裁としてご挨拶されましたが、ご挨拶をドイツ語（Auf ein erfolgreiches Jubiläumsjahr！Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit！　交流年の

成功をお祈りします。御静聴ありがとうございました。）で締めくくられたことは、出席者に深い印象を残しました。

さて、歴史を遡ると、江戸時代末期の 1860 年秋、プロイセンの東方アジア遠征団が江戸に到着し、翌年の 1861 年 1 月 24 日に日本と修好・通商・航海条約を結びました。この条約が、その後の長年にわたる日本とドイツの友好関係の礎となりました。

そして現在、2010 年の 10 月から 2011 年の 10 月にかけ、「日独交流 150 周年」のもと、多彩な記念行事や要人訪問を通じて、150 年に及ぶ交流の歴史を共に祝っています。

「日独交流 150 周年」の事業は、昨年 10 月 16 日に東京横浜独逸学園でのオープニングセレモニーとともに開幕しました。ドイツ側からはコルネリア・ピーパー（Cornelia Pieper）外務省国務大臣、フォルカー・シュタンツェル（Volker Stanzel）大使が、日本側からは伴野豊外務副大臣と林文子横浜市長が出席しました。

12 月 15 日には、ドイツのポップミュージックのトップグループの一つである「Tokio Hotel」が、東京で初のコンサートを行い、日独関係はまさに若い世代の積極的関与を活力としていることが証明されました。また、2011 年 1 月 24 日には「日独交流 150 周年」記念切手が発行されました。日独両国の世界遺産等を題材としたこの記念切手は、一部を共通のデザインとして、両国で共同発行されています。

東日本大震災により大規模な行事に関しては先の予定が見えない状況ですが、下記に示すように、様々な記念行事が計画されています。詳細な情報については、「日独交流 150 周年」公式サイトや、在日ドイツ大使館、及び、在ドイツ日本国大使館のホームページから知ることができます。

なお、外務省のパンフレット「日独交流 150 周年」には、日独交流の歴史とパートナーシップに関するミニ知識も掲載されています。例えば、「日本をお手本にしたマイセンの磁器」「ベルツ教授と草津温泉」「板東俘虜収容所とベートーベン第九」「日本サッカーの礎を築いたクラマー」という多岐にわたるテーマで独逸話が掲載されています。

歴代の獨協生たちが、150 年の間に様々な形で活躍し、日独友好に寄与してきたことは間違いありません。獨協同窓会の皆さまにおかれましても、日独交流 150 周年を一緒に祝おうではありませんか！

主な記念行事（予定）

日本	
5 月 26 日～ 7 月 26 日	東山魁夷「ドイツの心の旅路」展（長野）
8 月	ドイツロック・フェスティバル（東京）
9 月	経済シンポジウム「グローバル社会におけるドイツと日本」（東京）
10 月	ドイツフェスティバル（横浜）
秋	「ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川」落成式（京都）
ドイツ	
5 月 21 日～ 28 日	デュッセルドルフ日本週間（デュッセルドルフ）
5 月 22 日～ 28 日	狂言風オペラ（ベルリン、ブレーメン、デュッセルドルフ、ミュンヘン）
7 月 17 日	ミュンヘン日本祭り（ミュンヘン）
8 月末～ 10 月	葛飾北斎展（ベルリン）
11 月 5 日～ 11 日	ジャパン・ウィーク（フランクフルト）

参考サイト

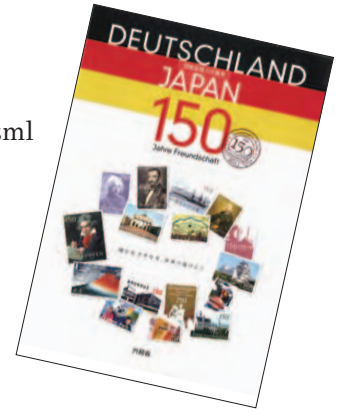
「日独交流 150 周年」公式サイト　http://dj150.jp/

在日ドイツ大使館「日独交流 150 周年」公式サイト
http://www.tokyo.diplo.de/Vertretung/tokyo/ja/00__DJ150/__HAUPTBEREICH.html

在ドイツ日本国大使館「日独交流 150 周年」ホームページ
http://www.de.emb-japan.go.jp/dj2011/

パンフレット「日独交流 150 周年」（外務省ホームページ）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/j_germany.html

皇太子殿下のおことば（宮内庁ホームページ）



ハインリヒ・ハイネ(Heinrich Heine)さんを迎えての創作インタビュー（上）

聞き手　柳　原　克　忠（昭和39年卒）

柳原（以下 Y）

2011 年は、ハインリヒ・ハイネさん没後 155 年目ということで、この新しく出来た「コラム・ドイツ」のコーナーで“愛の詩人”ハインリヒ・ハイネさんを遠方よりお迎えして、そのご生涯に亘るトピックスなどを中心に、日本語で伺いたいと思います。（申し遅れましたが、私は本日進行させていただきます、1964 年卒業の柳原と申します。）

Heine（以下 H）

ハイネです。本日は、パリのモンマルトルから参りました。もう 155 年もたったのですね。「獨協」のことは学生さんの訪独をドイツで新聞で読んだことがあります。確かアデナウアー首相 1960 年だったと思いますが、その獨協の同窓会会報でのインタビューに呼んでいただいて嬉しく思います。

今日は、何を聞かれるか私も分からないのですが、現役の頃は色々、鋭く批評をして何回も出版物が発禁になったりしたこともあります。少し反省はしてますけれど、まあ今日は何でもお役にたてばお話ししたいと思います。ただ記憶に少々問題ありかもしれませんが。

Y　それはありがとうございます。何かご遺族の方々や関係者の方々への事前のご了解とかは必要はないでしょうか。ちょっと……

H　いやいや、それはもう必要ありません。私は毎度言って、行動してしまって事後承諾が多かったですからね。

Y では、まずご出身・ご家族のことなど当時のことなどについてお話下さい。

H　1797 年 12 月 13 日生まれですが、届けの関係でこの生年については異説もありますが、私もよく分かりませんのでまあこれで。場所はライン河畔のデュッセルドルフ市です。

Y　―でご家族は？　あー少しお疲れですね。時差でしょうか。

H　すいません、ちょっとボケまして！　父親は商人で、母親は相当教養のある、どちらかというと父よりは自由主義的な気風をもっていました。あと、弟カールです。ユダヤ人家族です。当時デュッセルドルフはナポレオン支配が固まる以前の政情でまだフランス領でした。

Y　そうですね。1793 年にはフランス革命後国王ルイ 16 世、その王妃マリーアントワネットが刑死して、ナポレオンが 1799 年執政官になるまでの間の不安定な時期にお生まれになったのですね。やはり商人になろうということでしたか。

H　いやまだそんな事は考えていませんでした。それより、少年時代 15 ～ 16 才の頃、実は恋愛に夢中だったのです。つまり後の詩作に影響を与えたという意味で。

Y　やっぱり、そうですか。さすがに“愛の詩人”ですね。お相手はどんな？

H　交際はユダヤ人社会の中でした。相手は貧しい死刑執行人の娘でした。名前はヨゼファです。赤毛の孤児でした。その一族は卑しい身分ということで、迫害されてて、私の親戚のもとに身を寄せていました。そこへ彼女に魅力を感じ足繁く通いました。年は同じで 16 歳でした。

Y　なるほど、ハイネさんの恋愛はうまくいったことがないようですが。

H　ハッキリ言ってくれますね。でもその通りです。しかし、我が人生にとってはただの恋愛ゲームではなく、ある程度の“熱い愛”というものの強烈な思いを感じたのでした。まあーある意味人生のターニングポイントといっても過言ではありません。

Y　今後のハイネさんの人生や詩作に対してですか。

H　はいねっつー！　ハイそうです。ちょっと長くなりますけど、つまりこの卑しい一族と接した人間にきせられる世間的な不名誉など頓着できずに熱烈にこの死刑執行人の娘に接触していました。ただ惚れた情愛からではなく、古い社会とそのあらゆる暗い偏見というものに嘲りに対する気持ちからだったですねと未完の「回想」の中に書いたことがあります。つまりこの時期に私は、自分の生命を捧げた二つの情熱ひとつは、女性に対する愛と、もうひとつは革命に対する愛がはじめて心に燃えあがったのです。ちょっと長い話になりましたが私にとっては、少年時代の最も大きな印象的なことでした。

Y　そうですか、確かに。でも、その後、1827 年に出版された有名な「歌の本」に所収されている詩は殆ど、女性との恋愛や、片想いであり愛の悲劇の詩ばかりですね。16 才以降も相当に愛の悩みが多かったということですね。

H　ハンブルクでのことを話さないといけないようですね。19 才でした。叔父ザローモン・ハイネの経営する銀行の見習いになった頃でした。その叔父の娘つまり従妹のアマーリエ 16 才を好きになりました。このころからですね、恋愛の悦びや苦しみの詩をいくつか書き始めました。それまでの恋愛遊戯とは違って、恋をしました。しかも熱烈でした。叔父ザローモンは、巨万の富を持つ銀行家で私を商人にするためと働かされました。その娘アマーリエは、華やかで圧倒さ

れるような美しさでした。貧乏な行員見習いの私はただ単に同情されていたに過ぎなかったのです。その純粋な愛情の詩を捧げたのですが、そのたび冷たい笑いが返ってくるだけでした。冷たく美しい青い瞳を忘れられませんでした。

Y　でも、ハイネさんは、ドイツのアポロといわれるくらいな美少年で、なおかつ、たぐいまれな文学的才能に恵まれてましたよね。

H　しかし、アマーリエは物質生活で何のとりえもない貧乏詩人の私をかえりみることなく、それから3年後他へ嫁いでしまいました。

Y　では、第一の真実の恋は片想いのまま打ち砕かれてしまったということですね。でもその後、自分で会社を開いたそうですね。

H　ええ、叔父も私とアマーリエの事を知っていて、牽制する意味からも援助してくれたのでハリー（Harry Heine）ハイネ商会を開きました。ハリーは、本名です。名前の事を言っていませんでしたので、正式に言うと、クリスティアン・ヨハン・ハリー・ハイネ（Christian Johann Harry Heine）です。通称Heinrich Heineで通しましたが、その商会の事業もすぐ失敗に終わりました。21才の時でした。そのころから一層文学への情熱を感じていました。

Y　ではその頃までのハイネさんは、大きな失恋をして、始めた事業も失敗という経験から、逆に自分を見つめ直すという方向でしょうか。

H　その通りです。私はボン大学に入学し、ロマン派文学の本質に迫りました。その関係で、一時学生運動にも参加して、人間の生き方について考えたかったのです。23才の時評論「ロマン主義」を執筆しました。その後ゲッティレゲン大学に移り、ある学生に決斗を申し込みました。ちょっとした騒ぎを起こしました。翌年、このことで停学処分を受け、ベルリン大学へ通うことにしました。ここで、私にとって大きな思想上のそして哲学上の決定的な影響をヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel 1770～1831）から受けました。私の“愛への情熱と革命への情熱”に再び火がついたことを憶えています。そして、積極的にドイツの文壇人を知るようになりました。同時にユダヤ人解放のためにも尽力するようにしました。政治的なかかわりではなく、あくまでもこれはヒューマニズムのための思想と行動でした。

Y　ヘーゲルの影響を受けたベルリン大学を中退して又ハンブルクを訪ねたそうですね。

H　そう、ハンブルクにはアマーリエとの苦い思い出がありましたが、気になることもありました。それは、アマーリエの妹16才のテレーゼのことです。私のことを少しも気にかけなかった姉の面影はありましたがその若さと優雅な美しさで輝いていました。テレーゼに恋をしました。26才の時です。しかしテレーゼとも上手くは行きませんでした。今までお話した3人ヨゼファ、アマーリエそしてテレーゼ、その他にも女性は沢山いました。そうした経験の中で、私は詩作をつづけていました。それらをまとめて1827年出版したのが「歌の本」（Buch den Lieden）です。しばらく

詩集「歌の本」　第3詩群「帰郷」より

Ich weiß nicht, was soll es bedeuten　　なにゆえにこう悲しいか
［ローレライ］
H. Heine　　ハ　イ　ネ

Ich weiß nicht, was soll es bedeuten,
Daß ich so traurig bin,
Ein Märchen aus alten Zeiten,
Das kommt mir nicht aus dem Sinn.

Die Luft ist kühl und es dunkelt,
Und ruhig fließt der Rhein;
Der Gipfel des Berges funkelt,
Im Abendsonnenschein.

Die schönste Jungfrau sitzet
Dort oben wunderbar,
Ihr gold'nes Geschmeide blitzet,
Sie kämmt ihr goldenes Haar,

Sie kämmt es mit goldenem Kamme,
Und singt ein Lied dabei;
Das hat eine wundersame,
Gewaltige Melodei.

Den Schiffer im kleinen Schiffe,
Ergreift es mit wildem Weh;
Er schaut nicht die Felsenriffe,
Er schaut nur hinauf in die Höh'.

Ich glaube, die Wellen verschlingen
Am Ende Schiffer und Kahn,
Und das hat mit ihrem Singen,
Die Lore-Ley getan.

なにゆえにこう悲しいか
われながらわけもわからず、
いにしえの語り伝えが
心について離れない。

風ひえて、たそがれを
静かにラインは流れゆき、
沈む日に照りはえて
かの頂きはかがやきたつ。

あやしく高みに坐るのは
まことに美しい処女、
金の飾りをきらめかし
黄金の髪をくしけずる。

黄金の櫛に髪を梳き
処女は歌をくちずさむ、
その調べにこもる
ふかしぎの力きごう……

小舟をあやつる舟人は
悲痛の思いに心をうばわれ、
波に隠れる岩を見ず
ただ高みをみるばかり。

こうして、ついに舟人は
舟もろとも波に呑まれる。
これはあの歌の調べで
かのローレライのなすしわざ。

「ドイツ名詩選」（岩波文庫）　生野幸吉・檜山哲彦 編

発禁になりましたが。この「歌の本」は、詩群として５部の構成になっています。順番に「若い悩み」「抒情挿曲」「帰郷」「ハルツの旅より」そして「北海」です。内容的には、殆ど恋へのあこがれ、片思いの悲しみ、失恋の苦しみばかりで、むくわれた恋や相手から慕われている場合の恋とかの内容は全くありません。今までお話したような事実を詩にしています。憧れにのみ終わる恋ばかりだったわけですね。（以下次号）

私の近況　卒業 ん十年

●獨協時代①飯田橋駅から徒歩通学を全うした。長野眞吉君と帰りに途中迄の同行（彼は昨年整形外科医院閉院後も元気）②５年の時、運動会の再開③毎年５月５日恒例の豊島園迄の全校行軍等が特に印象深い。戦時スマトラ従軍中、昭９卒大竹忠三軍医さん、獨協近くの目白通り進開屋蕎麦店（現存）の人のお二人が、私の中隊におられ心強かった。終戦後シンガポールに抑留・強制重労働、昭 22 年 10 月復員。戦後は医・工薬等の卸売業を全国ネットで展開。現在会長（体の良い留守居役）、運転免許は 90 歳迄取得、専ら妻の通院介護用です。　**倉谷（中山）三男四郎**（昭 16 卒）

●卒業して 70 年、中学時代の思い出は昭和 15 年（紀元 2600 年）５年生の夏、八ヶ岳縦走したこと。リーダーは外山秀夫、メンバーは篠塚満郎・管野朗と私の４人。小海線松原湖を出発、稲子湯・本沢温泉・八ヶ岳キレット小屋に泊り、小渕沢駅から夜行列車で帰京した。私以外の３人はすでに他界、思い出を語り合う友もいなくなった。　**佐藤 恒徳**（昭 16 卒）

●２年前に仕事（精神科診療）をやめて引退。ドイツ語の勉強とドイツ文学を文庫本で読んでおります。昨年は体調をくずし入院しましたが、お陰様で何とか復調しました。　**高橋 芳和**（昭 16 卒）

●地方議員（市議と県議）を４期つとめましたが、在学中、口演部で演説の勉強したのが役立った、と思っています。感謝しています。　**中西 国夫**（昭 16 卒）

●三年生の時、試行的に優秀組が編成され、「鶏頭となるも牛尾となることなかれ」の牛尾になってはいってしまった。試験問題等、他の組と違って難しく、面白くない時代を過した。四年終了で中大予科に合格を機に退学した。戦後中大バレー部を創設し、在学中は獨協に指導に行った。17 年卒業の同窓会に呼ばれるようになり、出席しつづけたが 80 才を過ぎて他界者が多すぎて解散となってしまった

望月 隆明（昭 16 卒）

●私達のクラス会は 80 才の会合にてストップ。「独協通信」が唯一の情報源です。なお私の孫娘が獨協大学国際教養学部に合格のＴＥＬあり、あらためて独協中学時代を思い出しております。

澁澤 太郎（昭 16 卒）

●一病息災　**赤川　明**（昭 26 卒）

●只今肺炎と格闘中。グループも 12 名中７名になり淋しいかぎり。孫の為にもやらなければならないことが多くあり、全て魔との斗いです。健康第一を痛感、同窓となるであろう小６を見付けました。

田中 重穂（昭 26 卒）

●獨協の自由勉学の校風になじみ、楽しい学生生活に恵まれました。卒業後 60 年、ただ「少年老いやすし」の感深しです。昔の獨協少年、居間は獨居老人となり、そろそろ彼岸への旅支度などしております。

中村 草原（昭 26 卒）

●獨協高校昭和 36 年３年７組、卒業 50 周年記念クラス会の開催（11 月 20 日（日）於椿山荘）を計画しています。滝沢君・磯君のご消息をご存知の方はご連絡お願い致します。小生悠々自適中です。孫５人。

黒沢 駿雄（昭 36 卒）

●今年は卒業して丁度 50 年にあたります。ドイツ語クラスで３年間共に学んだ仲間は現在私の宝です。今でも毎年 20 人以上が集まります。担任であった大久間慶四郎先生も体調が良い時は足を運んで下さいます。青春時代の思い出を、今まさに共に楽しめる仲間を持ち得たことに感謝しています。

松木 益道（昭 36 卒）

●学校を卒業して 40 年、子供（女・男）２人共独立して今は家内と２人で楽しく生活をしています。自分で決めた定年（65 才）まで後８年を目指して努力して参ります。　**小川 守一**（昭 46 卒）

●母校の松本歯科大学で「骨の研究」を行っています。大学院を過した昭和大学歯学部同窓会長の飯島裕之先生が獨協の先輩だったことを最近知り驚きました。

宇田川 信之（昭 56 卒）

●獨協時代の楽しい思い出を胸に、今もずっと水泳や草野球を楽しんでいます。母校の学力低下も聞こえてきますが、信念を持って芯の通った人間を育てて下さい。　**佐藤　博**（昭 56 卒）

●昭和 56 年卒。現在勤務医として働いております。今年高校へ進学する息子の姿を見ていると、人生の中で大切な時期を先生方をはじめ、大勢の人達に支えられていた事を改めて思います。お世話になった先生方や同輩達との交流は少ないですが、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。　**藤田 敏明**（昭 56 卒）

●ご縁あって、同じ文京区の学校に勤務しています。母校が試合をしていると思わず頑張れ！と応援してしまいます。獨協のおおらかな校風の中で育った仲間との酒宴も続いています。　**上園 悦史**（平３卒）

●気がついたら卒業してもう 10 年。月日の流れの早さを感じます。また総会で冨岡先生に会うことを楽しみにしています。　**宇津木 保則**（平 13 卒）

●最近は特に忙しく、残業ばかりで不健康な毎日ですが、獨協時代の思い出を糧にどうにか元気にやっています。嘘つきましたが、元気にしていますよ。

渡来 智司（平 13 卒）

獨協五三会開催　昭和 19 年卒ドイツ語科

2010 年 9 月 29 日、閑静な東中野駅前の日本閣で行いました。

参加者は 10 名でしたが、今回はとくに尾島君の付き添いで部屋までお出で下さったお嬢様―宝塚歌劇団出身―も参加され、はからずも当会初、紅一点を交え、華やかかつ賑やかな集いとなりました。お嬢様からは会運営のお手伝いをしてもよいとのお申し出があり、今後幹事希望者が増えるかもしれません。

会員の奥様の中には、帰り道が心配だからデパートで時間待ちをし、会が終わる頃迎えに行こうか、という方もあると聞きます。次回からは奥様方も気軽にご参加頂ければと期待しています。

また皆に会いたいが都合で欠席とあった人も「閉会後は喫茶室に居るから」と電話をしたところ、２名が駆け付けてくれました。

今後の会運営のヒントを得たように思った次第です。　（幹事：村田昭一郎・原和夫　記）

昭和 25 年卒　大 豆 会

2010 年 11 月 12 日（金）に、昨年と同様霞ヶ関ビル 35 階東海倶楽部で開催した。

出席を予定された大久間喜一郎先生は、残念ながら体調不良にて御欠席、それでも数日を経ずして御回復されたとのことでほっとしている。

今回は獨協同窓会会長、鈴木荘太郎先生の御出席を頂き、“上手に医師にかかる方法”について大変有意義な御意見を賜わった。

次回大豆会は、平成 23 年 10 月 6 日（木）、同じ会場で開催の予定である。　（本田光芳　記）

昭和 34 年卒　古稀記念合同クラス会

2010 年 10 月 17 日（日）東京目白の椿山荘「つばき」の間にて、恩師大久間先生、大津先生、奥貫先生、小島先生、新宮先生をお招きし、盛大に開催されました。

幹事代表の有我君の開会宣言に始まり、ＴＢＳでおなじみの同級生大沢悠里君の司会のもと、諸先生御挨拶の後新宮先生の乾杯の御発声により、和やかな雰囲気の内に歓談となりました。

卒業時のクラスに関係なく久しぶりの友人との出会い、消息、健康管理など、古稀ならではの話題も含め賑やかな語らいが続き、後半は久しぶりの校歌斉唱、幹事紹介、万歳三唱し、閉会となりました。

合同クラス会は 10 年前に企画され、回を重ね今回が３回目です。出席者が少なくなっていますが入学時の約半数の所在を確認することができています。恩師の皆様からは、我々のように元気で頑張れと激励を戴き、今後は 10 年継続してきた幹事会を毎年継続する予定です。　（原鋏一　記）

昭和 36 年卒　中学ひとクラス会

昨年７月 11 日（日）第２回目の中学ひとクラス会を大塚君、田村君の尽力で開催。新宮先生、横山先生、本田先生、吉田先生にご出席いただきました。

さて、「39 年卒合同同窓会」のお知らせです。久しぶりに会いましょう。2011 年 7 月 10 日（日）15 時より「ホテルベルクラシック」（JR 大塚駅徒歩 3 分）にて開催します。会費は 1 万円です。奮ってご参加ください。申込締切りは 6 月 15 日、お問い合せは、大塚正行（090-3206-2531）柳原克忠（080-1084-6629）まで。（柳原克忠　記）

昭和 39 年卒　ドイツ語クラス

2010 年 10 月 30 日（土）に神田のうなぎ料理の「久保田」で行われた。当日は台風 14 号の影響で強い雨が降り、クラス会開催も危ぶまれた。２名が当日台風の影響で欠席となったが 12 名が参加してにぎやかな会となった。出欠の返事の中に今回は欠席だった加藤君からドイツに住む高橋季夫君の近況報告が載っており、65 歳になりドイツで年金生活をしている事が知らされた。出席者のなかから 65 歳になったのを機に毎年開催してはどうかという意見になり、皆の都合を考えて日時を決めることになった。酒の仕込み関係でいつも欠席となる宇都宮（伊藤）繁明君の出席できる時期の開催が提案された。宇都宮君からは彼の作り出した「花神」という酒をクラス会にと送って頂き、皆で乾杯に使わせて頂いた。

出席者が一人ずつ近況報告し、約三時間の会は閉会となった。幹事は上野君、名古屋君、私の三人で行い、写真は武田君に提供してもらった。　（佐藤忠一　記）

昭和 54 年卒　１組クラス会

毎年恒例となっているクラス会を平成 23 年 1 月 22 日（土）18 時より『個室居酒屋　番屋　八重洲本店』で開催いたしました。中学主管の新宮譲治先生、高校主管の飯嶋義信先生においで頂いた上、これまで「ドイツ語クラス」という名目での開催でしたが、その殻を打ち破り、今回は中学 1 組だった英語クラスの同窓生にも声をかけた結果、総勢 28 名のメンバーが集まり大盛況となりました（写真ではトイレのため 1 名が写っていません）。　互いの頭部､腹部に目をやり「知命（天命を知るの意）」といわれる 50 歳を改めて実感しながら、あちらこちらで当時の懐かしい話に花が咲いていました。（渡邊泰希　記）

昭和 55 年卒　クラス合同同窓会

平成 22 年 6 月 27 日（日）、椿山荘において当時主管であった、柴田千秋先生、田村孝雄先生、音海紀一郎先生、清棲保之先生、さらに中学時代の主管であった石井征次先生、金有一先生、太田朝博先生をお招きして開催致しました。

この同窓会は、高校卒業から 30 年という節目とともに、３年前に行われた獨協中学校昭和 52 年卒業同窓会の開催に引き続く形で開催されたものです。

今回も一次会、二次会を椿山荘で開催し、お陰様で一次会では出席者が 100 名を超え、二次会においても約 70 名が、さらに先生方も最後まで残って頂き大いに盛り上がりました。我々もまもなく 50 歳。久し振りの再会もあり、話し尽きることなく時は過ぎましたが、名残惜しいまま散会しました。

懇談の中、清棲先生から「鳥の研究」への熱い思いや、石井先生からは「お前らなら、社会を変えることができる」との激励、音海先生からは「当時、教育者として手を焼いたこと」などを聞き、我々一同 30 年前にタイムスリップした思いでした。

まさに何十年経っても、我々の「先生」であることを痛感致しました。

また出席された先生方より、日頃から大切にしてい

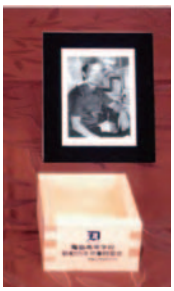
る言葉を色紙に頂戴致しましたので、同窓生の皆さんにもお知らせしたく、写真にて掲載させていただきました。

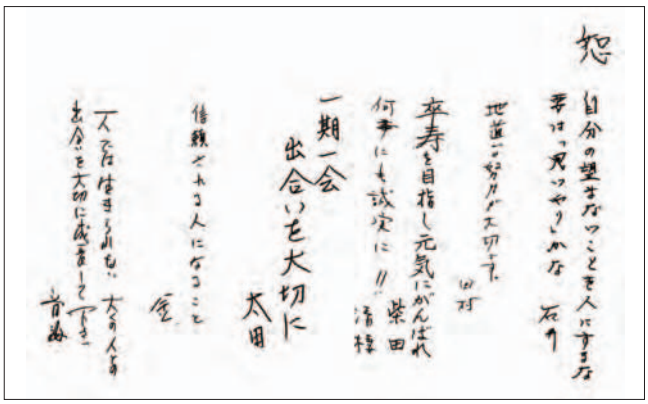
さて今後の同窓会の開催については、獨協復活・再興を旗印に、幹事会会合を定期的に行いながら、サッカーのワールドカップ大会で日本が活躍した年にちなみ、３年後（平成 26 年）に開催できればと幹事一同考えております。

昭和 55 年卒業の同窓生の皆さん、どうか連絡を絶やさず、３年後の再会を楽しみに待っていて下さい。

最後に既にお亡くなりなられた主管の神田直人先生、嶋田勝義先生のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、今回体調思わしくなく参加いただけなかった小林昭弘先生の一日も早いご快癒を祈念しております。

（高柳博行　記）





昭和 60 年卒　3年5組クラス会

平成 22 年７月 10 日土曜日に、主管田村先生をお招きしクラス会を開催。13 名のオールドボーイが集合しました。当日は３時より田村先生による新校舎ツアーと６時からの神楽坂での宴会（３次会までありました）という２部構成で行いました。新校舎ツアーでは、旧校舎との違いにみな驚き、そして時の流れを実感しました。校舎から神楽坂までは約 30 分の徒歩で移動。暑い中皆様ご苦労さまでした（特に田村先生）。宴会では、昨年と変わりなく集まれたことを互いに喜びあいました。来年も行いますので、それまでお元気で。

（２次会後の写真なので、先生をはじめ数名の方が写っていないことをお詫びいたします）　（井手久雄 記）

剣道部　稽古納め OB会

平成 22 年 12 月 26 日、剣道部稽古納めの日にあわせてＯＢ会を開催いたしました。稽古納めでは毎年恒例の中学高校生全員による気合いの入った紅白戦が行われ、締めの稽古では現役からＯＢまで全員が参加して竹刀を交えました。私はとうとう 20 年ぶりに防具をつけて稽古に参加し翌日は体中が痛くて動くのも辛かったのですが、汗をかいた後の爽快感は他では味わえないと思いました。稽古後にはＯＢと学生による懇親会も開かれ、学生たちは緊張の面持ちで自己紹介をしてくれ、私が中学生のころにやはり雲の上のような人であるＯＢたちの前で挨拶をさせられた恐ろしさが懐かしく思い出されました。目白通りの「入り江」にて開かれたＯＢ会では、その恐ろしかった先輩方とも今ではとても楽しく昔話に華を咲かせることができ、何度会っても性懲りもなく学生当時の先輩による鬼の仕打ちから話が始まります。宴会では斎藤師範をお招きし、山口（Ｓ 46 年卒）、佐久間（Ｓ 50）、沖（Ｓ 51）、立原（Ｓ 52）、木屋（Ｓ 54）、西川（Ｓ 59）、渡辺（Ｈ 19）、山本（Ｈ 19）、宮川（Ｈ 21）、大宅（Ｓ 54）〔敬称略〕の総勢 10 名が参加いたしました。例年のことながら、年配から大学生のＯＢまで世代を超えて剣道という交わりを通じて楽しいひとときを過ごせることがとてもありがたく、来年こそはＯＢ全体会を開催すべく動くことをお約束しお開きとなりました。

（大宅正起　記）

平成23年度大学別合格者数（推薦者を含む延べ人数・平成23年4月8日現在）

進路指導部

＜国公立大学＞	
東京大学	2
東京工業大学	2
東京農工大学	1
東京外国語大学	1
東京芸術大学	2
北海道大学	1
筑波大学	2
千葉大学	1
横浜国立大学	2
埼玉大学	1
信州大学	2
横浜市立大学	1
小計	18
＜私立大学＞	
獨協医科大学	4
獨協大学	17
慶應義塾大学	9
早稲田大学	13
上智大学	10
東京理科大学	13
青山学院大学	8
学習院大学	11
中央大学	28
法政大学	27
明治大学	35
立教大学	15
駒澤大学	12
専修大学	9
東洋大学	12
日本大学	37
成蹊大学	9
成城大学	8
武蔵大学	1
明治学院大学	14
工学院大学	7
芝浦工業大学	24
千葉工業大学	1
東京工科大学	1
東京電機大学	5
東京都市大学	8
岩手医科大学	3
北里大学	4
杏林大学	3
久留米大学	1
聖マリアンナ医科大学	2
帝京大学	10
東京医科大学	1
東邦大学	5
藤田保健衛生大学	
神奈川歯科大学	1
昭和大学	3
鶴見大学	2
日本歯科大学	7
明海大学	5
城西大学	1
日本薬科大学	3
武蔵野大学	1
明治薬科大学	1
麻布大学	1
東京農業大学	8
日本獣医生命科学大学	1
酪農学園大学	2
亜細亜大学	5
桜美林大学	4
神奈川大学	4
神田外語大学	1
関東学院大学	3
京都外国語大学	1
京都産業大学	2
京都造形芸術大学	1
國學院大学	3
国士舘大学	2
順天堂大学	1
城西国際大学	1
尚美学園大学	3
駿河台大学	1
大正大学	6
大東文化大学	6
拓殖大学	2
多摩大学	2
玉川大学	3
多摩美術大学	4
中央学院大学	3
東海大学	9
東京経済大学	2
東京国際大学	1
東京未来大学	1
日本体育大学	2
文教大学	1
武蔵野美術大学	4
明星大学	1
目白大学	1
立正大学	8
麗澤大学	1
和光大学	1
小計	493
＜私立短期大学＞	
東京交通短期大学	1
小計	1
＜大学校＞	
防衛大学校	1
小計	1
＜専門学校＞	
文化服装学院	1
小計	1
合計	514

退任にあたって

保健体育科　**音 海 紀一郎**

この度三月末日をもって、38年間お世話になった獨協中学・高等学校を定年退職いたします。振り返ってみますと、昭和47年4月に獨協に奉職して以来八人の校長先生のもとに仕えました。特に天野先生、小池先生の当時の朝礼でのお言葉が印象的で、その後の私の教師生活や考え方に多大の影響を与えられました。私の財産の一つといってもよいものであります。卒業生の結婚披露宴でのスピーチなどには両先生のお言葉を借りて話しております。

在職中には多くの個性ある生徒、ご理解を頂いたご父母との出会いがあって、主管・担任としても活気に満ちた生活を過ごす事が出来ました。

私が獨協で恙なく勤める事が出来たのは、最初の10年位は良き先輩の導きがあったことです。特に大ベテランの国語科の先生から、私は座学教育で生徒の行動が把握しにくいことはあるが、君は実技を通して一人ひとりの行動を把握して生徒指導が出来るのでその点を伸ばし、学級運営をしていけば君と生徒のコミュニケーションが今以上に生まれるので、ぜひそこを生かした教師を目指してほしいと言われ、その先生を学年主任とする主管団の一員になったのですが、その言葉が体育教師としての私を支えてきました。その後の20年以上は多くの教職員の方々の暖かいご協力と励ましがここまで長く勤められた要因でもあります。そして、体育研究室では、教科教育について真剣に話し合ったここ数年でありました。

校長先生が変われば学校が変わる。

獨協も一つの転換期を迎えるようですが、益々のご繁栄を祈念し、退任の挨拶といたします。

生徒の皆さんさようなら

英語科　**小 室 邦 雄**

思い出話になりますが、私が高校生の時、先生が「君たち、今の友達を大切にしなさいよ。」と仰ったことがありました。何の授業の何先生だったか、申し訳ないことにまったく覚えていないのですが、その先生はこう続けられたのです。「中学や高校のときの友達は、君たちの一生の友達になるからです。」

そのときはなんとなく聞き流していたのですが、その言葉は60歳を迎えた私の頭の片隅に今でもしっかり生きていて、見慣れた白髪頭やハゲ頭が集まるたびに蘇り、人との出会いの有難さを私に教えてくれます。今の生徒の皆さんの忙しそうな生活を見ていて、大変だなぁ、あんなに宿題を出して可愛そうなことをしたと私は反省しきりなのですが、一方皆さんにはとても恵まれていることが一つあるのです。それは、この学校ではたくさんの良い友達を得ることが出来るということです。

お別れの際に一つだけ皆さんに伝えるとすれば、私はあのときの先生が仰ったことと同じことを言うでしょう。私が何の授業の何先生かは忘れてしまって結構ですから、この学校で出会い、知り合った友達をどうかいつまでも大切にしてください。それでは皆さん、お元気で。

◆ 185 名を送りだす　獨協高等学校卒業式

第63回獨協高等学校卒業証書授与式が3月10日、寺野彰理事長、ドイツ大使館文化部ヨハネス・シュナードヴィンケル氏、梶山皓獨協大学学長、鈴木荘太郎同窓会長らの臨席のもと100周年記念体育館で行われた。永井伸一校長は式辞の中で「知識や技術をベースに考え方をしっかり持ち、プラス発想をして人間として最高の瞬間を味わい、至福を体験することは自信を持つことに繋がる」と語りかけた。鈴木会長からは卒業生全員に卒業記念品としてＤマークの刻まれたペーパーウェイトが贈られた。

◆ 210 名の新入生　獨協中学校入学式

平成23年度の獨協中学校入学式が4月6日に行われた。渡邊和雄校長は式辞の中で「未来を切り拓く生徒として、他の人々の幸せを叶えられるように育って欲しい」と呼びかけた。新入生を代表して田中駿悟君の希望あふれる宣誓があった。

◆獨協中学・高等学校人事

退　任　永　井　伸　一（校長）
　　江　辺　　勝（事務長）
　　音　海　紀一郎（保健体育科）
　　小　室　邦　雄（英語科）
新　任　宇津木　保　則（数学科）
　　塩　瀬　　治（理科）
　　鈴　木　佑　麻（理科）
　　岩　倉　隆　幸（英語科）

◆学園に対する寄付

獨協ドクターズクラブ、日本大学医学部獨協会、菅谷敦人（昭和58卒）君から寄付の申し出があった。

物故者名簿（『独協通信』74号以降）　ご冥福をお祈り申し上げます

卒業年	氏名	物故年月日
昭和04	福田　畊	平22.10.22
昭和09	北沢　吉民	不明
昭和10	原　六郎	不明
昭和10	岩佐　謹次	平19.3末
昭和11	久保田　龍象	平21年
昭和12	石井　鉄男	平22.3.18
昭和12	太幡　誠	平22.5.25
昭和12	上田　丈夫	平20.7.15
昭和13	斎藤　資郎	平22.2.12
昭和14	内田　恒道	平21.11.26
昭和14	小池　潤	平20.4.16
昭和14	小松　重保	平21.6.13
昭和14	駒木　實	平20.7.15
昭和14	小峯　友一	平23.1.26
昭和15	鈴木　正義	平21.12.1
昭和16	鈴木　八郎	平7.5.13
昭和16	福井　英夫	平20.5.1
昭和16	児玉　政治	平22.9.9
昭和17	木村　忠吉	平22.4.28
昭和17	若林　栄一	平19.2月
昭和17	戸島　藤郎	平22.4.13
昭和18	西片　守	平22.3.27
昭和18	野沢　邦彦	平21.9.2
昭和18	清野　友三郎	不明
昭和18	井原　恵治	平19.12.1
昭和19	福沢　昭夫	平21.11.15
昭和19	西尾　宏英	平22.12.6
昭和20	大森　勝朋	平21.5.2
昭和20	牧野　行雄	平22.1.16
昭和20	川北　登	平21.10.6
昭和20	小野　隆	平22.4.12
昭和20	山脇　穣	平21.5月
昭和20	吉田　俊之	平21.7.28
昭和20	幸野　利男	平18.8.23
昭和20	宮川　兜	平22.3.25
昭和20	朝比奈　高一	平22.6.24
昭和20	大崎　介藏	平22.5.14
昭和20	坂本　和夫	平22.12.26
昭和20	武川　達郎	不明
昭和21	井上　和夫	平22.5.13
昭和21	中島　直光	平21.4.28
昭和22	安田　隆	平22.6.2
昭和23	伊東　昭行	平21.7.24
昭和23	戸張　弘	平21.4.21
昭和23	穴沢　弘	平21.2.2
昭和24	佐藤　伊久男	平22.6.17
昭和24	染谷　芳豊	平22.3.23
昭和26	佐治　義雄	平22.5.25
昭和26	大場　惇吉	平19.4.4
昭和27	伊東　史朗	平20.3月
昭和28	高木　菊雄	平22.9.2
昭和30	石橋　信一	平20.9月
昭和30	木村　幹雄	平21.10.4
昭和35	阪口　恒雄	平22.6.10
昭和37	山崎　次朗	平22.5.16
昭和37	畑中　弘志	平22.4.21
昭和37	荒木　俊勝	平19.6.19
昭和41	槍田　松慧	平22.5.8
昭和41	浮田　和夫	平21年
昭和41	文山　受己	平22.6.21
昭和42	戸田　豊	平22.11.19
昭和42	伊澤　進	平22.5.8
昭和43	篠　惠嗣	平22.2.23
昭和44	小山　和夫	平22.2.21
昭和44	並木　保	平9.3.6
昭和47	片桐　次郎	平18.1.21
昭和57	石橋　茂雄	平22.5.12

獨協同窓会は
今年も獨協祭に参加します
9月24日（土）～25日（日）

今年度は、①初代東京大学総長で第3代校長加藤弘之先生と ②日独交流150周年（2011年）をテーマに展示する予定です。ご期待ください。例年通り、「茶話コーナー」、「展示即売コーナー」も開設します。皆様のご来場をお待ちしております。なお、本企画にご関心のある同窓生の方があれば、本企画にご協力下されればと考えております。奮ってお手伝いください。

◆事務局より

事務局の大蔵さんが退職され、後任に筒井州子（つついくにこ）さん、鈴木洋子（すずきひろこ）さんのお二人にお願いすることになりました。同窓会へのご連絡などはこのお二人が担当されますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

東日本大震災から2ヶ月余になります。同窓生の中にもご家族やお知り合いに被災された方もあろうかと思いますが、衷心よりお見舞い申し上げます。わが国はこの災害から立ち直ることでしょうが、人知の及ばぬことが多いことを改めて感じます。この経験が生かされ、我々の子孫が安全かつ平穏に暮らせるよう願うばかりです。（竹文）